

# 野球で最も点数入りやすいイニングは何回か

2年5組25番 高橋 知朗（高瀬ゼミ）

**Abstract** — 野球は全部で9回のイニングの試合である。その中で様々な要素が複雑に絡み合って点数が生まれているのだが、最も点が入りやすいイニングは一体何回なのか。プロ野球の試合データを分析した結果、4回が最も点が入りやすいと分かった。

コメントの追加【徳増1】: 各項目の名称はHGP ゴシックのボールド

**Keyword:** イニング、得点、打順、疲労

## 研究背景

6年間野球をしてきて、自分はよく「1回は点が入りやすい」や、「最終回（9回）などが点を取る」という言葉を聞いたことがあった。しかし、それらは本当にデータに基づいているのか疑問に思った。そのため、各イニングの平均得点数から点の入りやすいイニングを客観的に明らかにする。さらに、点の入りやすいイニングを研究することによって、試合の流れや傾向を予測するのにも役立てると思った。

## 研究目的

プロ野球のデータから平均得点率を計算することにより、点の入りやすいイニングの最頻値を調べる。それに加えて、その最頻値のイニングでの状況を再度調査し、なぜ点が入やすかったのかを考察する。

## 研究手法

一ヶ月間（2025年6月）のプロ野球全12球団の試合データをExcelに取り込み、各回の点の入った数を比較し、その値が最も高かったものを研究の結果とする。

## 研究結果

表1:イニング別平均得点数

	合計得点数	平均得点数
1回	107	63
2回	71	43
3回	67	41
4回	118	66
5回	95	52
6回	90	56
7回	78	42
8回	104	53
9回	53	31

## 考察

4回が最も得点に入る理由として、先発投手が1、2巡目となり、疲労の蓄積もあることが挙げられる。打者は1巡目で球種やコースを把握しているため、2巡目では対応しやすくなる。

また、投手は40~60球付近で疲労が蓄積してくるため、制球が甘くなる傾向がある。このような背景が、4回の得点増加に影響したと考えられる。次に、9回は得点が最も少ない理由として、やはり立ち上がりの不安定さがある。先頭打者と上位打線が初回に集まる構造であるため、失点が起こりやすい状況が生まれない。一方で、9回の得点が最も少ない理由は明確だ。リードしている側はクローザーと呼ばれる抑え投手が登板するため得点は入りにくくなる。また、点が大きく開いた場合は攻撃側も積極的な攻めを控えることがあるため、得点機会が相対的に減少する。以上のように、得点の入りやすさは単なる偶然ではなく、投手の疲労・打者の対応力・投手交代・得点機会など、試合進行に伴う戦略的要因が複雑に絡み合っていると考えられる。

## 結論及び今後の展望

最も得点が多い回は4回であり、最も少ない回は9回であると明らかになった。この結果は、野球が単なる確率的ゲームではなく、試合の流れや投手交代、打者の回りといった要素が得点に大きく影響するスポーツであることを示している。今後の展望として、複数月のデータを比較したり、球場別・リーグ別で比較したり、各チームでも調査していきたい。

## 参考文献

- \* 試合日程・結果 NPB.jp 日本野球機構
- \* 野球における得点しやすいイニング・しにくいイニングの特定 ベースボールパーク・オンライン
- \* 2025年度 アウト/塁状況別の得点期待値 プロ野球データパーク